

100万人のフィールドワーカー シリーズ



1 | フィールドに入る

椎野若菜・白石壮一郎 編

どうやって自分の調査地に入っていったのか？ アフリカの農村から北極南極の雪原まで、調査初期段階のエピソードを中心に紹介。現地の協力者との出会い、多くを教えられ調査地になじんでいく過程を描くシリーズ入門編。

2 | フィールドの見方

増田研・梶丸岳・椎野若菜 編

学問分野が異なれば、同じものを見ても、同じ場所においても、同じテーマを扱っていても、考え方や分野の違いによってフィールドを見る眼が違ってくる。違いのおもしろさを発見し、研究の新たな可能性を探る。

3 | 共同調査のすすめ

大西健夫・椎野若菜 編

文理横断型の学際的な共同調査に参加することで、どのようなことに悩んだり苦労したのか、そして、どのような発見と自身の成長があったのか。フィールドワーカーの葛藤と飛躍を、共同調査の経験者たちが語る。

4 | 現場で育つ調査力

増田研・椎野若菜 編

フィールドワーカーの養成と教育がテーマ。初学者である学生に関心をもってもらうための工夫、専門家養成のためのさまざまな試みを披露する。調査技術の体系的伝授が先か？ それとも現場力や行動力が重要なのか？

5 | 災害フィールドワーク論

木村周平・杉戸信彦・柄谷友香 編

被害軽減という社会的な課題のために、狭い分野にとらわれない多様なアプローチが災害調査には求められる。さまざまな分野のフィールドワークを見渡すとともに、災害の地域性を考えていく。

6 | マスメディアとの交話

椎野若菜・福井幸太郎 編

研究成果を発信するとき、フィールドワーカーはマスメディアとかわりをもつ。メディアに対して、どのようなスタンスをとればよいのか？ 報道の結果に対して調査者たちはどのような意見を持っているのか？

7 | 社会問題と出会う

白石壮一郎・椎野若菜 編

調査をすすめていく過程で、その地域の社会問題と向き合わざるをえなくなったとき、フィールドワーカーは何を感じ、どう行動したのか？ 調査を通して社会問題が姿を変えながら浮上する局面を生き生きと伝える巻。

8 | 災難・失敗を越えて

椎野若菜・小西公大 編

予期せぬ事態にどう対応したのか？ フィールドワーカーたちは、想定外の事件に遭遇したり、命の危険があるほどの失敗があっても、現場に対処しながらくぐりぬけている。今だから語れる貴重な体験談がおもしろい！

9 | 経験から学ぶ安全対策

澤柿教伸・野中健一 編

天変地異、病気、怪我、事故、政変、喧嘩など、予期せぬさまざまな危険からどう身を守るのか。「予防」と「対策」をテーマにした実用的な巻。個人レベルから組織レベルまで、安心安全のための知識と方法と教訓が役立つ。

10 | フィールド技術のDIY

的場澄人・澤柿教伸・椎野若菜 編

現場での調査観測は、必ずしも予定通りに進まないことが多い。また思わぬ事象、現象、資料に遭遇することもある。想定外のチャンスを、現場で、また研究室でどのようにものにしたのか。その苦労、工夫を紹介する。

11 | 衣食住からの発見

佐藤靖明・村尾るみこ 編

現場の衣食住とかわることで、思いがけないプラス効果やマイナス効果に出会う。その先に、次なる展開がまっていることも。衣食住をきっかけに、フィールドワーカーが成長し、研究テーマを深めていく過程を描く。

12 | 女も男もフィールドへ

椎野若菜・的場澄人 編

ジェンダーとセクシュアリティがテーマ。女性の苦勞、男性の苦勞、妊娠・出産・子育てしながらの調査、長期の野外調査と家庭の両立など、フィールドワーカーの人生の試行錯誤が語られる。

13 | フィールドノート古今東西

椎野若菜・丹羽朋子・梶丸岳 編

情報化が進み、世界中のデータがデジタル化される現代にあっても研究者は手書きで記録を取っている。フィールドでの記録の手法を学際的に比べることで、フィールドノートのさらなる発展を期することを目指している。

14 | フィールド写真術

秋山裕之・小西公大・村田悟 編

写真撮影を上達したいフィールドワーカーのために、一眼レフカメラによる写真撮影の基礎から、フィールドでの撮影条件を意識した主題を的確に描写するためのテクニック、芸術性の向上につながる写真術について概説。

15 | フィールド映像術

分藤大翼・川瀬慈・村尾静二編

映像についての理論編、制作編、応用編からなり、フィールドワーカーが映像を活用するにあたっての注意点から、現地の人びととともに作る映像、自然・動物を相手にした映像まで分野を横断したフィールド映像術。

